

【大学院音楽研究科 博士後期課程】

<2026年度 入学者選抜> 試験科目と出題意図

各試験科目について、2026年度入学者選抜の出題意図を公開します。

— 試験科目一覧 —

専攻	研究領域	研究分野	試験科目					
			外国語	実技	作品審査	論文審査	口述試験	面接
音楽	器楽	有鍵楽器	○	○	/	/	○	○
		管楽器						
		弦楽器						
		打楽器						
	声乐	歌曲	○	○	/	/	○	○
		オペラ						
	作曲	創作	○	/	○	/	○	○
	音楽学	西洋音楽	○	/	/	○	○	○
音楽教育	音楽教育	○	/	/	○	○	○	

— 出題意図 —

試験科目	出題意図	備考
外国語	英語、ドイツ語、イタリア語のうちから出願時に選択した1科目について、筆記試験（和訳）を行い、博士後期課程の研究に相応しい外国語能力を備えているか判定する。	
実技	各研究分野の楽曲を、指定された演奏時間の範囲で自由にプログラミングして演奏する。試験はコンサートホールで行われ、審査員が採点することにより博士後期課程で学ぶに足る演奏能力・意欲を有しているかを判定する。加えて、ピアノコラボレイティブアーツコースについては、声楽家、器楽奏者と共に音楽を創り出していく課題を課し、受験者が備えているアンサンブル能力を判定する。また、ピアノ独奏の課題を演奏することにより、演奏能力を判定する。さらに、声楽あるいは器楽の独奏パート（1声部）を含む新曲を、楽曲全体のイメージが表せるようにピアノで適宜アレンジをしつつ演奏することを課し、その能力を判定する。	
作品審査	修士課程修了に際して、当該学位審査に提出した作品または主要な作品について審査を行い、博士後期課程で学ぶに足る能力・意欲を有しているかを判定する。	
論文審査	修士課程修了に際して、当該学位審査に提出した論文または主要な論文について審査を行い、博士後期課程で学ぶに足る能力・意欲を有しているかを判定する。	
口述試験	研究領域（器楽、声乐、作曲）については、出願時に志願者から提出された修士論文要旨、修士課程修了演奏曲目、修了課程修了作品等ならびに研究計画書をもとに、研究対象についての明確な方向性と博士論文を執筆するための探究意欲や知識を有しているかを判定する。 研究領域（音楽学、音楽教育）については、出願時に志願者から提出された修士論文（要旨を含む）ならびに研究計画書をもとに、当研究領域に相応しい博士論文を執筆するための探究意欲と能力を有しているかを判定する。	
面接	本学の建学の精神と教育方針のもとで学修するに相応しい、豊かな人間性を有しているかを確認する。	